

競 技 注 意 事 項

- 1 本大会は、2022 年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会競技注意事項によって実施する。
- 2 アスリートビブス（ナンバーカード）、腰ナンバーカードについて
 - (1) 本年度愛知陸協登録者は、登録アスリートビブスを使用する。
 - (2) 友の会に登録をしていない競技者は、受付でアスリートビブス（1枚）を配付する。なお、競技後、安全ピンとともに回収係（第1ゲート）へ必ず返却すること。
 - (3) アスリートビブスは胸と背にはっきり見えるようにつける。ただし、アスリートビブスを貸し出された競技者は、胸のみでよい。跳躍競技の競技者は、背または胸につけるだけでもよい。
 - (4)トラック種目に出場する競技者は、受付で写真判定用の腰ナンバーカードを受け取る。ランニングパンツの右横に、明確に数字が読めるようにつける。
- 3 ウォーミングアップについて
 - (1) 競技中のバックストレートでのウォーミングアップは、競技の支障のない範囲でもよい。長距離の競技中は6～8レーンのみ使用してもよい。スタート時は走らない。
 - (2) 競技時間帯は競技役員の指示に従って、競技運営に支障をきたさないよう注意する。
 - (3) 投てき種目の練習はできない(メディスンボールでの練習も不可)ので、競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。
- 4 受付・招集について
 - (1) 受付は第4ゲート（100mスタート付近）に設け、競技開始2時間前から入場できる。ただし、競技開始が10時以前の種目は8時以降に入場すること。大会1週間前から記入してある体調チェックシートを提出し、競技場へ入場する。その際、再入場カードを受け取る。
 - (2) 退場・再入場は第1・4ゲートからできる。再入場する場合は、第1・4ゲートで係に再入場カードを見せ、再入場する。
 - (3) トラック種目は競技開始5分前までに、フィールド種目は競技開始30分前までに各種目のスタート地点やピットに集合し、招集を受ける。ただし、50mは第4ゲート内側テラス下に集合する。
- 5 競技について
 - (1) トラック競技について
 - ① スタートは、全てのレースで合図を英語とし、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。ただし、小学生のスタートは友の会ルールを採用し、同じ競技者が2回の不正スタートをしたとき、その競技者を失格とする。
 - ② 風力は50m、100m、200m、走幅跳で計測をする。
 - ③ 50mではスターティングブロックを使用しなくてもよい。
 - ④ 短距離種目（ハードルを除く）についてはブロック合わせのみとし、スタート練習はしない。
 - ⑤ 400mまでのレーン使用の競技では、フィニッシュ後も他の競技者の安全のために、自分に割り当てられたレーン（曲走路）を減速し止まる。
 - (2) フィールド競技について
 - ① 走幅跳と砲丸投について、各競技者は3回の試技ができる。
 - ② 中学走幅跳と中学砲丸投の1回目の試技が無効試技でない場合は、全て計測する。2回目以降は次のように計測ラインを設け、計測ラインに満たない試技は無効試技とする。なお、計測ラインは天候等により、フィールド審判長の判断で変更する場合がある。

	中学男子	中学女子
走幅跳	4 m 8 0	4 m 2 0
砲丸投	7 m 5 0	7 m 2 0

③ バーの上げ方

- ・ 中学・一般・高校男子走高跳の最初の高さは1m40とし、以後は5cmずつ上げていく。

- ・ 中学・一般・高校女子走高跳の最初の高さは1m20とし、以後は5cmずつ上げていく。
- ・ 棒高跳の最初の高さは、跳躍審判員で協議し、フィールド審判長が決定する。
- ・ 走高跳の最初の高さは、天候により変更する場合がある。

④トラック競技とフィールド競技が重なった場合、競技審判に申し出てトラック競技を優先すること。原則としてトラック競技出場後にフィールド競技に戻った時点のラウンドの試技から続けることとする。

⑤走幅跳と砲丸投の試技数は、天候により変更する場合がある。

⑥砲丸投の砲丸は、競技場備え付けの物を使用する。

⑦競技終了後は、自分の助走マーカを必ず片づける。

(3) リレー競技について

①リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻の60分前までに記録室へ提出する。用紙は受付に用意する。

②リレーのマークは主催者側で用意したものを使用する。

6 一般・高校／中学生／小学生(学年別)の部門別に各種目の優勝者には賞状とメダルを授与する。中学生／小学生(学年別)の各種目2位、3位には賞状を授与する。個人申込の入賞者は本部で表彰する。

7 スパイクピンは全天候用の物を使用し、トラック・フィールドともに7mm以下を使用すること。ただし、走高跳は12mm以下の物を使用する。

8 大会における傷害については主催者が応急手当は行うが、その後の責任は負わないものとする。ただし、傷害保険に加入するため、その範囲内で対応する。なお、会場への行き帰りについても傷害保険の対象となっている。

9 競技場には記録は掲示しない。WEBで確認する。

10 貴重品類の管理は各自で行い、盗難等に注意すること。

○豊川陸上競技協会HP <https://toyokawaaa.com/>

○Web 速報 (スタートリスト・競技結果)

<https://toyokawaaa.com/sokuho/220417/nans21v/shtml/TimeTable.html>

